



酒井はやみ 議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

## 問 義務教育学校の開校にあたって

**答** 開校後の変化の状況を的確にとらえ、柔軟な対応による学校運営に取り組む

もの権利を学習している。また、揭示板設置や保護者への説明会により周知を図り、教職員には研修を実施し共通理解を深めている。「まぐべつ学園」の開校に際しては、学校名のアンケート調査、校歌や校章デザインの募集により児童生徒の思いを反映させる取組を進めてきた。今後も子どもたちが自由に表明できるよう努める。



幕別町立まぐべつ学園

「まぐべつ学園」の校章

**問** すべての学校に学校司書の配置を

**答** 学校司書配置に対する財政措置を要請していく

**問** 町の「第4期幕別町子ども読書活動推進計画」では、

子どもたちがあらゆる機会、あらゆる場所で主体的に読書活動に取り組める環境を整備するとしている。しかし、計画の実現にはまだ改善の余地がある。以下伺う。  
(1) 学校図書館の利用率向上に向けた具体策は。  
(2) 学校司書を配置する考えは。

### 教育長

(1) 町内の小中学校では、児童生徒の学力向上を目的に読書活動を推進し、朝読書や調べ学習などを学校図書館で実施している。町図書館は、学校からの要請に応じて学校図書館の利用活性化につながる支援に取り組んでいる。今後も支援を継続し、学校図書館の環境整備に取り組んでいく。

(2) 学校司書は、学校図書館法に基づき図書館運営や利用促進を担う役割が求められる、司書教諭や教員と連携し授業や教育活動の支援も行う。しかし、国の地方財政措置はあるものの町独自で学校司書を配置するには不十分のため、現状では困難である。全国町村会や全国市町村教育委員会連合会は学校司書配置促進のため財政措置の引き上げや定数措置を求める要望を国に提出している。町では各団体を通じて学校司書や司書教諭の専任配置を引き続き要請していく。

**問** 「まぐべつ学園」開校にあたり、児童生徒が安心できる環境を整えることが重要。「幕別町子どもの権利に関する条例」が生かされ、すべての子どもたちが自分の居場所と感じられる学校づくりをどう進めていくのか伺う。  
(1) 5年生から50分授業となり、テストのあり方も検討するとされている。子どもたちに過度な負担とならないよう、どのような配慮や体制で学びを保障していくのか。  
(2) 不登校や行き渋りの未然防止、また不登校傾向の子が安心して学べる学校となる体制、困りごとを把握する体制は。  
(3) 「幕別町子どもの権利に関する条例」を新しい学校でどのように位置づけ、どのように具体化していくか。

### 教育長

(1) 令和8年4月に開校するまぐべつ学園では、児童生徒の課題解決と教育環境の向上のため、4・3・2制を採用し、小中学校間の円滑